

公務員人事改革

—最新 米・英・独・仏の動向を踏まえて—

村松 岐夫 [編著]

〈定価 本体 3,800円+税〉 A5判／並製／340頁

ISBN 978-4-313-13089-0 2018年7月刊行

人事評価、政官関係など公務員制度の比較研究！

政官関係、人事評価、人材配置など人事管理のあり方が注目を集めている現在、各国の①採用・昇進②政官関係③人事評価④最近の主な改革と今後の動向⑤地方公務員制度などについて最新データや各国の実情から詳細に分析解説。日本のベストプラクティスを考察する！

目次 (抄)

- 第1章 本書のねらい
- 第2章 アメリカ合衆国の公務員制度
 - 1 概観
 - 2 職業公務員の採用・昇進の制度・実態
 - 3 政と官——政治任用制度とその実態
 - 4 労働基本権と給与その他勤務条件
 - 5 人事評価
 - 6 退職管理と年金
 - 7 最近の主な改革と今後の動向
 - 8 地方公務員制度
- 第3章 イギリスの公務員制度
- 第4章 ドイツの公務員制度
- 第5章 フランスの公務員制度
- 第6章 各国の比較からの知見
- 第7章 研究者による各国比較からみえたもの
 - I NPMと公務員制度改革－英米独仏日の状況
 - II 人的資源管理の変容
 - III 比較政官関係論から見た日本の公務員制度
 - IV 外国事例からの観察

本書は二〇〇八年六月に上梓した『公務員制度改革－米・英・独・仏の動向を踏まえて』の後継に当たる書物である。しかし、本書は、前著の改訂版ではない。本書は、本書執筆者の紹介に示す新しい執筆者が、数回にわたって研究会を統け、到達し得た知見が主要内容であり、焦点は、公務員制度の中でも人事改革にある。研究者側から参加したメンバーは前回と同じであるが、各研究者も、本書における米英独仏の公務員制度を分析する諸章を読みながら、それぞれの関心に従って、米英独仏の諸国について最近の公務員制度から見えるものを論じている。

前著の出版から十年が経過した今、公務員制度の在り方に再び注目が高まっていることも確かである。この間、各においても公務員制度に関して種々の改正が行われており、改めて各國の最新の動向を踏まえた比較研究が求められるに至った。このような問題意識で執筆に取り組むこととなつた本書であるが、単なる前著の改訂ではなく、タイトルを『公務員人事改革－最新米・英・独・仏の動向を踏まえて』と改め、この方向で内容を充実させることとした。その意図は、人事評価、人材配置、幹部人事管理など、人事管理にかなりの重点があることをここで述べておきたい。

本書では、国別の専門家による米英独仏各國の詳細な研究（2章～5章）に基づき、4ヶ国の個別制度と個別制度を包括する歴史的背景や政治行政の全体構造にも言及しながら、第6章では、諸外国との比較のうえで、日本の公務員人事管理の分析を行つた。第7章では、これらの個別の諸章を踏まえて、諸外国と日本の双方の状況に詳しい大学研究者がそれぞれの観点から執筆している。

本書は、読み手の問題意識によって、タテにもヨコにも活用できる。国ごとに読み進めることで、各国の公務員人事管理を体系として理解することもできよう。一方、各國研究部分の項目は共通性を持たせているので、関心のあるテーマについて横断的に読んでいくことも可能である。様々な読者の関心にこたえることができれば幸いである。

村松岐夫

はしがき (抄)



学陽書房

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-3 TEL. 03-3261-1111 FAX. 03-5211-3300
<http://www.gakuyo.co.jp> 振替00170-4-84240